

職員団体との交渉の議事要旨

(開催日時)

令和4年8月8日(月) 15:00～16:00(60分間)

(開催場所)

札幌第1合同庁舎10階共用3号会議室

(出席者)

当局側(北海道開発局)

石塚 宗司(局長)、柘植 紳二郎(開発監理部長)、池下 一文(開発監理部次長)、
日野 勉(総務課長)、村津 敏紀(職員課長)

職員団体側(全北海道開発局労働組合)

高倉 司(委員長)、上山 新吾(副委員長)、齋藤 航太郎(書記長)、
井端 隼平(書記次長)、山口 聖恵(特別中央執行委員)

(議題)

【2023年度勤務条件改善に関する要求関係】

超過勤務の縮減について

(要求書に対する回答)

要求書のうち、交渉議題として取り決めた事項について回答(別紙のとおり)。

(要 旨)

(職員団体) 定員と業務量のミスマッチ、管理者のマネジメント不足など、根本の要因を解決しなければ超過勤務はなくなる。どのように超過勤務を縮減していく考えなのか。

(当局) 毎月、本局において全道の超過勤務実績を整理・分析し、その結果については本局及び各開発建設部の幹部へ情報の共有を行っている。分析結果を基に、人員の適正配置や適正な業務配分をきめ細かく行うことなどにより、超過勤務の縮減に取り組んでいきたい。

(職員団体) 深夜に及ぶ勤務を連続した場合、健康管理等の観点から勤務間インターバルを十分確保することが重要と考えている。当局においてはどのような対応を行っているのか。

(当局) 現在、勤務間インターバルは国家公務員においては制度化されておらず、人事院において制度化についての検討が進められていると聞いているが、それまでの間は、遅出勤務、フレックスタイム制の活用や、年次休暇の取得等で、十分なインターバルを確保できると考えている。

（職員団体） 上限時間を超えた勤務が必要となった場合、管理者が適切なマネジメントを行うべきだと考えているが、組合のアンケートを見る限り、やりきれていない職場も多いと認識している。

（当 局） 上限時間を超えても、必要な場合は超過勤務を行うこともあると考えており、管理者と職員がよく話し合い、お互いに状況を把握し、必要な時間の超過勤務が適切に行われるよう、引き続き、管理者を指導していきたい。

（職員団体） テレワーク実施要領では「原則超過勤務は命じない」「業務の都合上やむを得ない場合は命ずることは可能」とされているが、組合のアンケートではテレワーク時の超過勤務の実態が多く報告されている。テレワーク時の勤務時間管理はどのように行っているのか。

（当 局） テレワーク時は、勤務時間開始時及び勤務時間終了後に電話またはメール等により、所属長に連絡を行うことになっている。また、やむを得ず超過勤務を命じる場合には、職員からの事前申告・事後確認を徹底するなどして対応している。

（職員団体） 特例超勤について、給与事務、入札・契約業務などは通常業務で行っているものであり特例業務とは言えない。通常勤務の中で超過勤務が発生していると捉えているが、どう考えるか。

（当 局） 特例超勤については、限られた期間内で迅速な対応が求められる業務を1つのカテゴリーとして整理されているところである。いずれにしても、特例超勤であろうとも縮減を図ることは大切なことであることから、引き続き、様々な方策を検討していきたい。

（職員団体） 勤務時間管理システムの導入時期等について、その後情報はるか。

（当 局） 現在、本省では令和4年度中の本省内での運用を目指し、作業を行っているが、地方支分部局への展開時期等については聞き及んでいない。導入に係る情報については鋭意確認する。

※文責は北海道開発局当局（相手方未確認。今後修正があり得る）

交渉議題に係る回答メモ
(2023年度勤務条件改善に関する要求)

令和4年8月8日

超過勤務の縮減について

超過勤務の縮減については、職員のワークライフバランスを実現する上で、重要な課題であり、引き続き、職員の意識改革を含む働き方改革に取り組む必要があると考えている。

本来、業務は勤務時間内で処理することが望ましいと考えるが、業務の性質や時期によっては、超過勤務が避けられない場合がある。

当局としては、職場の超過勤務の実態等を踏まえ、業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理を行うとともに、週休日及び休日出勤の縮減、定時退庁日における定時退庁の励行、フレックスタイムなど効率的な働き方の促進等により、超過勤務の縮減に努めているところである。

また、超過勤務を行う場合には、人事院規則等に定められた上限時間を踏まえるとともに、職員の健康を害しないように考慮しているところであり、今後とも、この点に十分留意するとともに、きめ細かな業務の進行管理に努めるよう、管理者を指導していきたい。